

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-81487

(P2015-81487A)

(43) 公開日 平成27年4月27日(2015.4.27)

(51) Int.Cl.
E04H 1/02 (2006.01)F 1
E04H 1/02テーマコード (参考)
2E025

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2013-221273 (P2013-221273)
(22) 出願日 平成25年10月24日 (2013.10.24)(71) 出願人 303046244
旭化成ホームズ株式会社
東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
(74) 代理人 100088155
弁理士 長谷川 芳樹
(74) 代理人 100128381
弁理士 清水 義憲
(74) 代理人 100133307
弁理士 西本 博之
(72) 発明者 大石 哲央
東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 旭
化成ホームズ株式会社内
Fターム(参考) 2E025 AA13 AA14 AA15

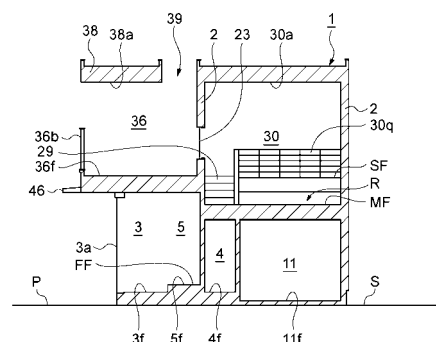
(54) 【発明の名称】 住宅

(57) 【要約】

【課題】ベランダに配置された植物の鑑賞性の向上を図ることができる住宅を提供する。

【解決手段】住宅1は、2階床SFが設けられていない領域Rに形成され、1階床FFと2階床SFとの間の高さ位置に配置された中間床MFと、中間床MF上の空間に形成され、2階床SF上の空間に形成されたダイニングキッチン30の天井面30aと連続し且つ天井面30aと略同等の高さの天井面20aを有するリビングルーム20と、2階床SFと同等の高さの床36fを有するベランダ36とを備え、外周壁2には、透視性を有する窓23が設けられており、窓23の下端部は、ベランダ36の床36fの高さ以上で且つ床36fから400mm以下の位置に設定されている。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

1 階床及び 2 階床を有する 2 階建ての住宅であって、

前記 2 階床が設けられていない領域に形成され、前記 1 階床と前記 2 階床との間の高さ位置に配置された中間床と、

前記中間床上の空間に形成され、前記 2 階床上の空間に形成された第 1 居室の天井面と連続し且つ当該天井面と略同等の高さの天井面を有する高天井居室と、

前記高天井居室と外周壁により区画されて隣接すると共に、前記 2 階床上の空間に形成された第 2 居室に連通して当該第 2 居室から出入り可能に設けられ、前記 2 階床と同等の高さの床を有する外部室と、を備え、

10

前記外周壁には、透視性を有する窓が設けられており、

前記窓の下端部は、前記外部室の床の高さ以上で且つ当該床から 4 0 0 m m 以下の位置に設定されている、住宅。

【請求項 2】

前記外部室の上方に設けられた軒天井及び当該軒天井上部の屋根には、前記外周壁側の位置に、前記軒天井及び前記屋根を貫通する開口部が設けられている、請求項 1 記載の住宅。

【請求項 3】

前記窓は、前記高天井居室内から当該窓を介して前記外部室を目視した際に、前記外部室に設けられた物干し設備に掛けられた洗濯物が視界に入ることの妨げる位置に設けられている、請求項 2 記載の住宅。

20

【請求項 4】

前記物干し設備は、前記軒天井から垂下、又は、前記軒天井の近傍において外部壁に設置されており、

前記窓の上端部は、前記外部室の前記床と前記軒天井との間の高さの 1 / 2 以下の位置に設定されている、請求項 3 記載の住宅。

【請求項 5】

前記窓は、平面視において前記物干し設備と重ならない位置に配置されている、請求項 3 記載の住宅。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】**【0 0 0 1】**

本発明は、住宅に関する。

【背景技術】**【0 0 0 2】**

従来の住宅として、例えば特許文献 1 に記載されているものが知られている。特許文献 1 に記載の住宅は、北側に上階の床が設けられていると共に、上階の床よりも低く且つ下階の床よりも高い位置で南側にスキップ床が設けられている。この住宅では、スキップ床上にリビングルームが形成されており、リビングルームに隣接してベランダが形成されている。リビングルームとベランダとを区画する壁には、窓が設けられている。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0 0 0 3】**

【特許文献 1】特開 2 0 0 5 - 3 5 0 8 8 0 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0 0 0 4】**

近年、ベランダにおいてガーデニングが行われており、ベランダに花等の植物が配置されていることがある。上記従来の住宅のように、リビングルームとベランダとの間に窓が設けられている場合には、リビングルームにおいてベランダに配置された植物を觀賞する

50

ことができる。しかしながら、窓の位置によっては、ベランダの床に配置された植物が見えないこともある。また、リビングルームに配置された家具や家電が窓と重なることにより、ベランダの植物が見えなくなることもある。

【0005】

本発明によれば、ベランダに配置された植物の鑑賞性の向上を図ることができる住宅を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る住宅は、1階床及び2階床を有する2階建ての住宅であって、2階床が設けられていない領域に形成され、1階床と2階床との間の高さ位置に配置された中間床と、中間床上の空間に形成され、2階床上の空間に形成された第1居室の天井面と連続し且つ当該天井面と略同等の高さの天井面を有する高天井居室と、高天井居室と外周壁により区画されて隣接すると共に、2階床上の空間に形成された第2居室に連通して当該第2居室から出入り可能に設けられ、2階床と同等の高さの床を有する外部室と、を備え、外周壁には、透視性を有する窓が設けられており、窓の下端部は、外部室の床の高さ以上で且つ当該床から400mm以下の位置に設定されている。

【0007】

この住宅では、高天井居室と外部室とを区画する外周壁に窓が設けられており、窓の下端部は、外部室の床の高さ以上で且つ当該床から400mm以下の位置に設定されている。これにより、外部室の床に植物が配置されている場合であっても、窓の下端部が外部室の床の近傍に設定されているため、高天井居室から外部室の床に配置された植物を觀賞することができる。また、外部室の床は、2階床と同等の高さとなっている。これにより、窓の下端部は、中間床よりも高い位置となる。そのため、中間床に配置される家具や家電と窓とが重なることを回避できる。その結果、高天井居室から外部室に配置された植物を觀賞することができる。

【0008】

一実施形態においては、外部室の上方に設けられた軒天井及び当該軒天井上部の屋根には、外周壁側の位置に、軒天井及び屋根を貫通する開口部が設けられていてもよい。これにより、開口部を介して窓から高天井居室に光を取り入れることができる。また、外部室において窓付近に植物を配置している場合には、その植物に開口部を介して光を当てること及び水分（雨や露）を供給することができる。

【0009】

一実施形態においては、窓は、高天井居室内から当該窓を介して外部室を目視した際に、外部室に設けられた物干し設備に掛けられた洗濯物が視界に入ることを妨げる位置に設けられていてもよい。このような位置に窓を設けることにより、高天井居室でくつろぐ居住者の視野に洗濯物が入って不快に感じることを抑制できる。

【0010】

一実施形態においては、物干し設備は、軒天井から垂下、又は、軒天井の近傍において外部壁に設置されており、窓の上端部は、外部室の床と軒天井との間の高さの1/2以下の位置に設定されていてもよい。これにより、例えば物干し設備に洗濯物が掛けられたときに、高天井居室にいる居住者の視野に洗濯物が入り難くなる。

【0011】

一実施形態においては、窓は、平面視において物干し設備と重ならない位置に配置されている。これにより、高天井居室にいる居住者の視野に洗濯物がより入り難くなる。

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、ベランダに配置された植物の鑑賞性の向上を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】一実施形態に係る住宅の1階平面図である。

10

20

30

40

50

【図 2】一実施形態に係る住宅の 2 階平面図である。

【図 3】図 1 における I I I - I I I 線に沿った断面図である。

【図 4】図 1 における I V - I V 線に沿った断面図である。

【図 5】ベランダを西側から見た図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、添付図面を参照して、本発明の好適な実施形態について詳細に説明する。なお、図面の説明において同一又は相当要素には同一符号を付し、重複する説明は省略する。

【0015】

図 1 は、一実施形態に係る住宅の 1 階平面図である。図 2 は、一実施形態に係る住宅の 2 階平面図である。図 3 は、図 1 における I I I - I I I 線に沿った断面図である。図 4 は、図 1 における I V - I V 線に沿った断面図である。本実施形態では、部屋の配置説明を容易にするため、図 1 及び図 2 中の上方向を北側として説明する。なお、東西南北の方角については、厳密に決定されるものではなく、45°程度のずれを許容するものとする。

10

【0016】

住宅 1 は、南側が例えば道路に接し、他の 3 方向は隣地に接した敷地 S に建造されている。敷地 S の南西の角部分には、玄関ポーチ P が設けられたアプローチ A が配置されている。敷地 S の北東側の領域には、ウッドデッキ W が設置されている。また、敷地 S の南側には、道路に接したカーポート C が配置されている。

20

【0017】

住宅 1 は、外周壁 2 に囲まれた略矩形状の陸屋根形式の 2 階建て建物である。住宅 1 は、標準的な家族構成である、夫婦と 2 人の子供とからなる 4 人家族の居住を想定した間取りになっている。

【0018】

続いて、住宅 1 の構造について詳細に説明する。住宅 1 は、1 階床 F F を有する 1 階と、2 階床 S F と有する 2 階と、中間床 M F を有する中間階と、を有している。中間床 M F は、1 階床 F F と 2 階床 S F との中間的高さに位置している。

【0019】

[1 階の構成]

30

最初に、住宅 1 の 1 階について図 1 を参照しながら説明する。図 1 に示すように、住宅 1 の 1 階には、玄関 3、シューズクローゼット 4、玄関ホール 5、廊下 6、主寝室 7、ウォークインクローゼット 8、子供部屋 9、書斎 11、多目的室 13、トイレ 15、及び収納スペース 17 が形成されている。1 階の天井高は、床が低く設定された領域（玄関 3、書斎 11 及び多目的室 13）を除き、例えば 2400 mm 程度である。

【0020】

玄関 3 は、南西の角部に配置されている。玄関 3 は、外周壁 2 により屋外（外部）に設けられた玄関ポーチ P と区画されている。外周壁 2 には、玄関ドア 3 a が設けられている。玄関 3 は、玄関ドア 3 a により、玄関ポーチ P と出入り可能とされている。玄関 3 の床 3 f は、玄関ポーチ P の床と段差なく連続しており、タイル等の土足歩行可能な床材で仕上げられている。また、玄関 3 の床 3 f レベルは 1 階床 F F よりも 200 mm 弱低く設定されている。

40

【0021】

シューズクローゼット 4 は、玄関 3 に隣接して配置されており、玄関 3 の土間を形成する床 3 f から段差なく連続する床 4 f を有する。玄関 3 とシューズクローゼット 4 との間の間仕切り壁には、ドア 4 a が設けられている。

【0022】

玄関ホール 5 は、玄関 3 に隣接して配置されている。玄関ホール 5 と玄関 3 との間には、間仕切り壁等の仕切りはなく、玄関ホール 5 と玄関 3 とは連続した一体の空間を構成する。玄関ホール 5 の床 5 f における、玄関 3 の床 3 f との境界部（段差部）には上がり框

50

が設けられている。

【 0 0 2 3 】

廊下 6 は、玄関ホール 5 に対し連続的に配置されている。玄関ホール 5 と廊下 6 との間の間仕切り壁には、ドア 5 a が設けられている。このドア 5 a は玄関 3 及び玄関ホール 5 と他の空間とを遮断し空調効果を高めるものである。廊下 6 は、玄関ホール 5 から北側に南北方向に沿って延びると共に、北側の端部から略 90° 屈曲して東側に向かって東西方向に沿って延びており、平面視において略 L 字形状を呈している。廊下 6 により、玄関ホール 5、主寝室 7、子供部屋 9、多目的室 13、トイレ 15 及び収納スペース 17 が互いに連絡可能とされている。

【 0 0 2 4 】

主寝室 7 は、北西の角部に配置されている。主寝室 7 は、夫婦の寝室として使用され、ベッド、鏡台等が設置される。主寝室 7 の北側の外周壁 2 には窓 7 a が、東側の外周壁 2 には窓 7 b が夫々設けられている。主寝室 7 と廊下 6 との間の間仕切り壁には、ドア 7 c が設けられている。

【 0 0 2 5 】

ウォークインクローゼット 8 は、主寝室 7 の南側に隣接して配置されており、内部の壁面に沿ってハンガーパイプや棚板が設置されている。主寝室 7 とウォークインクローゼット 8 との間の間仕切り壁には、ドア 8 a が設けられている。

【 0 0 2 6 】

子供部屋 9 は、北東の角部に配置されている。子供部屋 9 は、2 人の子供の学習や就寝の場として使用される。子供部屋 9 の中央部には、例えば、可動式の収納家具 C L が配置されている。収納家具 C L により、子供部屋 9 は 2 つの空間に区画されており、夫々の空間にベッドと勉強机が設置される。なお、子供部屋 9 は将来的に可動式の収納家具を壁際に移動して一つの空間として使用することも可能である。

【 0 0 2 7 】

子供部屋 9 の北側の外周壁 2 には、窓 9 a , 9 b が設けられている。窓 9 a , 9 b は、東西方向において所定の間隔をあけて配置されており、子供部屋 9 とウッドデッキ W とを出入り可能に連絡している。子供部屋 9 の南側において廊下 6 に面する部分には、天地丈の 4 枚引きのドア（建具）9 c が設けられている。ドア 9 c を構成する 4 枚の障子は夫々独立した溝に沿って東西方向にスライド可能であり、全ての障子が一端に寄せられることにより、3 枚分を開放することができる。子供部屋 9 における 2 つの空間は夫々 1 枚以上の障子に面しており、夫々の空間には他方の空間を経由することなく出入りすることができる。ドア 9 c の面材は、透光性及びある程度（人の気配は感じ取れる程度）の透視性を有する部材からなり、本実施形態では半透明の亚克力パネルである。

【 0 0 2 8 】

書斎 11 は、南東の角部に配置されている。書斎 11 は、後述する中間床 M F の下方に位置している。書斎 11 は、1 階床 F F よりも所定寸法（例えば、400 mm 程度）低い床 11 f を有している。書斎 11 の南側の外周壁 2 には、東西方向において所定の間隔をあけて同一仕様の 2 つの窓 11 a , 11 b が設けられている。書斎 11 と多目的室 13 との間の間仕切り壁には、天地丈の 3 枚引きのドア 11 c が設けられている。ドア 11 c を構成する各障子の構成は、高さ寸法を除きドア 9 c を構成する障子と略同一である。また、書斎 11 と玄関ホール 5 との間の間仕切り壁には、ドア 11 d が設けられている。書斎 11 の南側には、外周壁 2 の内面に沿って、東西方向に延在するカウンター 11 e が設けられている。カウンター 11 e は、床座の際の座卓、椅子座の際の腰かけ或いは飾り棚等として利用が可能な高さに設定されている。書斎 11 の北西側には、収納スペース 11 g が配置されている。

【 0 0 2 9 】

多目的室 13 は、東側で且つ子供部屋 9 と書斎 11 との間に配置されている。多目的室 13 の床 13 f は、書斎 11 の床 11 f と同じ高さであり、書斎 11 の床 11 f と面一で連続している。多目的室 13 の東側の外周壁 2 には、窓 13 a が設けられている。窓 13

10

20

30

40

50

aは、床13fに居住者が座ったときに、目線の高さ位置となるところに配置されている。また、多目的室13の東側の外周壁2の内面に沿って、南北方向に延在するカウンター13bが設けられている。カウンター13bは、床座の際の座卓、椅子座の際の腰かけ或いは飾り棚等として利用が可能な高さ、且つ、窓13aの下端部の高さ位置と略同等となるように設定されている。多目的室13の上方は、南側の領域は後述する吹抜け部25となっている。

【0030】

子供部屋9のドア9cと書斎11のドア11cとを開放すると、子供部屋9、多目的室13及び書斎11は、連続した一体的な空間となる。これにより、書斎11から子供部屋9（或いは子供部屋9から書斎11）を見渡すことができる。

10

【0031】

トイレ15は、1階の中央部であり、後述する上階段29の下の空間に配置されている。収納スペース17は、廊下6を挟んでトイレ15の向かい側、且つウォークインクローゼット8に隣接して配置されており、廊下6側に折れ戸形式の扉が設置されている。

【0032】

[中間階の構成]

続いて、住宅1の中間階について図2を参照しながら説明する。図2に示すように、中間階は、中間床MFの上の空間に形成されている。中間床MFは、住宅1の南東の角部において、2階床SFが設けられていない矩形状の領域Rの一部に矩形状に形成されており、図3に示すように、2階床SFよりも所定寸法（例えば、800mm程度）低い位置に形成されている。2階床SFが設けられていない領域Rは、平面視において略矩形状を呈している。図2に示すように、住宅1の中間階には、リビングルーム（高天井居室）20が形成されている。

20

【0033】

リビングルーム20は、書斎11の上方に位置している。図3に示すように、リビングルーム20の天井面20aは、2階のダイニングキッチン30（後述）の天井面30aと同じ高さとしてされている。リビングルーム20の天井高（中間床MFから天井面20aまでの高さ寸法）は、例えば3200mm程度である。

【0034】

図2に示すように、リビングルーム20には、例えば、ソファF及びテレビボードVB等が配置されている。東側の外周壁2から西側の下階段27（後述）にかけて、リビングルーム20の北側の縁部に沿って透視性を有する手摺20bが設けられている。手摺20bの高さは、居住者（例えば、夫婦）の腰の高さ位置程度（例えば中間床MFから900mm程度）とされている。手摺20bとしては、透明の亚克力パネルやガラスパネルからなるもの、或いは、所定の間隔で配列された複数の木材からなるものを用いることができる。

30

【0035】

リビングルーム20の南側の外周壁2には、開閉自在な窓21が設けられている。窓21は、リビングルーム20（住宅1）内への採光及び通風が可能な採光通風窓である。窓21は、2階床SFの高さ位置近傍からリビングルーム20の天井面20a近傍までの高さを有する。詳細には、窓21の下端部は、2階床SFよりも180mm程度高い位置（中間床MFから980mm程度高い位置）に設定され、窓21の上端部は、天井面20aよりも70mm程度低い位置（中間床MFから2130mm程度高い位置）に設定されている。窓21の幅は、2800mm程度であり、リビングルーム20の南側の外周壁2の略全体にわたって設けられている。この窓21は、2階の居室部分に一般的に用いられるものである。

40

【0036】

窓21は、略全開放型の折り畳み窓である。窓21は、ガラスと枠体とを有する複数（本実施形態では4枚）の障子21a、21b、21c、21dと窓枠とにより構成されている。4枚の障子21a～21dのうち、2枚の障子21a、21b及び21c、21d

50

(窓 2 1 の幅方向の端部に位置する障子 2 1 a 及び 2 1 d とその内側に位置する障子 2 1 b 及び 2 1 c) は、ヒンジ (蝶番) で連結されており、障子体 (窓部) 2 1 A , 2 1 B をそれぞれ構成している。つまり、窓 2 1 は、2 組の障子体 2 1 A , 2 1 B と窓枠とにより構成されている。

【 0 0 3 7 】

障子 2 1 a ~ 2 1 d は、東西方向に沿ってスライド可能に設けられている。障子体 2 1 A , 2 1 B は、図 2 に示すように、それぞれを両端部側にスライドさせると障子 2 1 a ~ 2 1 d が外側に突出して折り畳まれ、それぞれ一端部に寄せられる。具体的には、障子体 2 1 A , 2 1 B においては、各障子 2 1 a ~ 2 1 d の上枠及び下枠の端部 (ヒンジで連結されていない側) 寄りの位置からは軸部材が上方向及び下方向に突設しており (合計 4 本の軸部材)、軸部材が窓枠の上下のレール部に回転及び摺動自在に噛み合うことで、障子体 2 1 A , 2 1 B のスライド及び外側に突出させて折り畳むことが可能となっている。2 組の障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d は一端に寄せることも、両端に振り分けることも可能とされている。

【 0 0 3 8 】

リビングルーム 2 0 の南側の外周壁 2 の外側には、庇 2 2 が配置されている。庇 2 2 は、窓 2 1 の上端近傍に配置されており、外周壁 2 から外側に突出している。庇 2 2 の外周壁 2 からの突出寸法は、窓 2 1 が開けられたとき、すなわち障子 2 1 a ~ 2 1 d が外側に突出したときの障子 2 1 a ~ 2 1 d の外周壁 2 からの突出寸法と略同等とされている。つまり、庇 2 2 の先端 2 2 a は、障子 2 1 a ~ 2 1 d が外側に突出したときの先端の位置に略一致している。また、庇 2 2 の幅寸法は、窓 2 1 の幅寸法と略同等とされている。

【 0 0 3 9 】

図 2 及図 4 に示すように、リビングルーム 2 0 とベランダ 3 6 とを区画する外周壁 2 には、窓 2 3 が設けられている。窓 2 3 は、透明なガラスを有する横すべり出し窓である。窓 2 3 の下端部は、ベランダ 3 6 の床 3 6 f の高さ以上で且つこの床 3 6 f から 4 0 0 m m 以下の位置に設定されており、具体的には、中間床 M F から 1 2 0 0 m m 程度高い位置 (2 階床 S F よりも 4 0 0 m m 程度高い位置) に設定されている。

【 0 0 4 0 】

窓 2 3 の上端部は、中間床 M F から 2 0 0 0 m m 程度高い位置 (2 階床 S F から 1 2 0 0 m m 程度高い位置、天井面 2 0 a から 1 2 0 0 m m 程度低い位置) に設定されている。窓 2 3 の上端部は、後述するベランダ 3 6 に設けられた物干し金物 3 7 a , 3 7 b の取り付け位置よりも下方に設定されており、ベランダ 3 6 の床 3 6 f と軒天井 3 8 a との間の高さの 1 / 2 以下の位置に設定されている。つまり、窓 2 3 は、外周壁 2 において、ベランダ 3 6 から見て下端側に配置されている。また、窓 2 3 の南側 (ベランダ 3 6 から窓 2 3 を見た場合の右側) の端部は、図 2 (図 5 も参照) に示すように、後述するベランダ 3 6 に設けられた物干し金物 3 7 a , 3 7 b の先端部よりも北 (外観視で左) に位置している。つまり、窓 2 3 は、リビングルーム 2 0 内から窓 2 3 を介してベランダ 3 6 を目視した際に、ベランダ 3 6 に設けられた物干し金物 3 7 a , 3 7 b に掛けられた洗濯物 L が視界に入ることを妨げる位置に設けられている。窓 2 3 は、平面視において物干し金物 3 7 a , 3 7 b と重ならない位置に配置されている。

【 0 0 4 1 】

リビングルーム 2 0 の北側には、吹抜け部 2 5 が形成されている。吹抜け部 2 5 は、2 階床 S F が設けられていない領域 R において、中間床 M F が形成されていない領域に設けられている。詳細には、吹抜け部 2 5 は、リビングルーム 2 0 と子供部屋 9 との間に位置し、東側の領域は 1 階の多目的室 1 3 の上方に位置している。図 3 に示すように、吹抜け部 2 5 の天井面 2 5 a は、リビングルーム 2 0 の天井面 2 0 a と同じ高さでされている。すなわち、リビングルーム 2 0 の天井面 2 0 a 、吹抜け部 2 5 の天井面 2 5 a 及びダイニングキッチン 3 0 の天井面 3 0 a は、全て同じ高さでされており、略面一となっている。

【 0 0 4 2 】

リビングルーム 2 0 から北側を見下ろすと、吹抜け部 2 5 を介して、子供部屋 9 のドア

10

20

30

40

50

9 c を視認することができ、ドア 9 c が開放されている場合に子供部屋 9 内部の様子が伺えるのはもちろん、ドア 9 c が閉鎖されている場合も、面材が半透明の亚克力パネルからなるので、子供部屋 9 内部の様子をぼんやりと視認することができる。

【 0 0 4 3 】

吹抜け部 2 5 内の西側には、1 階床 F F と中間床 M F とを連絡する下階段 2 7 と、中間床 M F と 2 階床 S F とを連絡する上階段 2 9 と、が形成されている（吹抜け部 2 5 は下階段 2 7 及び上階段 2 9 が形成された領域も含む概念である）。下階段 2 7 は、直線状の階段であり、1 階の廊下 6 と中間階（リビングルーム 2 0）とを連絡する。

【 0 0 4 4 】

上階段 2 9 は、下階段 2 7 の西側に下階段 2 7 と桁側面（長辺）同士が隣接するように配置されており、中間階（リビングルーム 2 0）と 2 階（ダイニングキッチン 3 0）とを連絡する。上階段 2 9 は、2 階床 S F に連続し且つ 2 階床 S F と面一に延在する平坦部分 2 9 a と、平坦部分 2 9 a の南側の端部と中間床 M F とを直線的に連結する傾斜部分 2 9 b と、を有する。平坦部分 2 9 a は、踊り場として機能する。

【 0 0 4 5 】

[2 階の構成]

続いて、住宅 1 の 2 階について図 2 を参照しながら説明する。図 2 に示すように、住宅 1 の 2 階には、ダイニングキッチン（第 1 居室）3 0 と、ユーティリティ室（第 2 居室）3 2 と、浴室 3 4 と、ベランダ（外部室）3 6 と、ベランダ 4 0 と、トイレ 4 2 と、が形成されている。

【 0 0 4 6 】

ダイニングキッチン 3 0 は、2 階の北側に配置されている。ダイニングキッチン 3 0 は、2 階床 S F 上の空間に形成された居室である。ダイニングキッチン 3 0 は、1 階の主寝室 7 及び子供部屋 9 の上方に位置している。図 3 に示すように、ダイニングキッチン 3 0 の天井面 3 0 a の高さ寸法は、2 階床 S F から 2 4 0 0 mm 程度とされている。ダイニングキッチン 3 0 の天井面 3 0 a は、リビングルーム 2 0 の天井面 2 0 a 及び吹抜け部 2 5 の天井面 2 5 a と同じ高さとされている。これにより、リビングルーム 2 0、吹抜け部 2 5 及びダイニングキッチン 3 0 は、一体的な空間となっている。ダイニングキッチン 3 0 から南側を見ると、吹抜け部 2 5 を介して、リビングルーム 2 0 は見下ろす位置に配置されている。

【 0 0 4 7 】

ダイニングキッチン 3 0 に北東側の外周壁 2 には、東西方向に沿って所定の間隔をあけて同一の構成の 3 つの窓 3 0 b , 3 0 c , 3 0 d が並設されている。ダイニングキッチン 3 0 の東側の外周壁 2 には、南北方向に沿って所定の間隔をあけて同一の構成の 2 つの窓 3 0 e , 3 0 f が並設されている。

【 0 0 4 8 】

ダイニングキッチン 3 0 は、東西方向に延在しており、東側に食堂スペース 3 0 g が設けられている。食堂スペース 3 0 g には、例えばダイニングセット D が配置されている。ダイニングキッチン 3 0 の西側には、台所スペース 3 0 h が設けられている。台所スペース 3 0 h には、キッチンセット 3 1 が配置されている。キッチンセット 3 1 は、アイランド型であり、南側を向いて作業するようにシンクや加熱調理機器（IH クッキングヒーター、ガスコンロ等）が配置されている。

【 0 0 4 9 】

ダイニングキッチン 3 0 の北側（キッチンセット 3 1 の北側）には、冷蔵庫置き場（冷蔵庫）3 0 i、家電品置場を兼ねた食器棚 3 0 j が配置されている。冷蔵庫置き場 3 0 i は、キッチンセット 3 1 の加熱調理機器の北側に配置されている。食器棚 3 0 j は、ダイニングキッチン 3 0 の北側の外周壁 2 の内面に沿って、東西方向に延在している。ダイニングキッチン 3 0 の南西側には、食品や飲料等を収納するパントリー 3 0 k が配置されている。パントリー 3 0 k の東側には、パントリー 3 0 k に隣接して収納棚 3 0 n が配置されている。ダイニングキッチン 3 0 の西側及び北側には、アイロンがけ等の家事や子供の

10

20

30

40

50

学習などに使用できる作業スペース 301 が配置されている。作業スペース 301 には、カウンター 30m が設けられている。ダイニングキッチン 30 の南側において吹抜け部 25 に面する縁部には、透視性を有する手摺 30q が設けられている。手摺 30q としては、透明の亚克力パネルやガラスパネルからなるもの、或いは、所定の間隔で配列された複数の栈材からなるものを用いることができる透視性を有するパネルからなるもの、或いは、所定の間隔で配列された複数の栈材からなるものを用いることができる。

【0050】

ユーティリティ室 32 は、2 階の南西側に配置されている。詳細には、ユーティリティ室 32 は、ダイニングキッチン 30 の南側で、且つ、リビングルーム 20 の西側に配置されている。ユーティリティ室 32 は、平面視において略 L 字形状を呈している。詳細には、ユーティリティ室 32 は、ダイニングキッチン 30 から南側に向かって南北方向に延在する第 1 スペース 32A と、第 1 スペース 32A の南側の端部から西側に向かって東西方向に延在する第 2 スペース 32B とを有している。

10

【0051】

ユーティリティ室 32 とダイニングキッチン 30 との間の間仕切り壁には、ドア 32a が設けられている。ドア 32a (ユーティリティ室 32 の入口) を開放した状態で、居住者がキッチンセット 31 の加熱調理機器の前に立つと、ユーティリティ室 32 内及び後述するベランダ 36 を見渡すことができる。ユーティリティ室 32 には、洗濯機置き場 32b と、洗面化粧台 32c と、収納スペース 32d と、が配置されている。

20

【0052】

洗濯機置き場 32b は、洗濯機を配置するスペースであって、給排水設備を備え、第 2 スペース 32B の西側の突き当りに配置されている。洗面化粧台 32c は、第 1 スペース 32A の南側に位置し、洗濯機置き場 32b に対向する位置に配置されている。収納スペース 32d は、第 1 スペース 32A の北側で洗面化粧台 32c に隣接して配置されている。

【0053】

浴室 34 は、ダイニングキッチン 30 とユーティリティ室 32 の第 2 スペース 32B との間に配置されている。浴室 34 には、南側にドア 34a が設けられている。ドア 34a は、浴室 34 とユーティリティ室 32 の第 2 スペース 32B とを出入り可能に連絡している。浴室 34 には、西側にバスタブ 34b が配置されている。浴室 34 の西側の外周壁 2

30

【0054】

ベランダ (外部室) 36 は、南西の角部に配置されている。ベランダ 36 は、ユーティリティ室 32 及びリビングルーム 20 に隣接している。ベランダ 36 とユーティリティ室 32 との間の外周壁 2 には、掃出しタイプの窓 36a が設けられている。窓 36a により、ユーティリティ室 32 とベランダ 36 とが出入り可能に連絡されている。図 4 に示すように、ベランダ 36 の上方は陸屋根 38 で覆われ、当該陸屋根 38 の下面には軒天井 38a が設けられている。軒天井 38a におけるリビングルーム 20 の外周壁 2 側の部分は、陸屋根 38 及び軒天井 38a が矩形状に取り除かれて陸屋根 38 を貫通する開口部 39 が形成されている。ベランダ 36 の西側の縁部には、手摺 36b が設けられている。

40

【0055】

図 5 は、ベランダを西側から見た図である。図 2 及び図 5 に示すように、ベランダ 36 には、物干し設備として物干し金物 37a, 37b が設けられている。物干し金物 37a, 37b は、物干し竿を挿通したりハンガー等を引っ掛けたりするための複数の孔を有し、図 2 に示すように、外部壁 2a の内側面において東西方向で所定の間隔をあけて北側に向かって突出するように設けられている。物干し金物 37a, 37b の床 36f からの高さ寸法は、例えば 1800mm 程度である。つまり、物干し金物 37a, 37b は、窓 23 の上端部よりも上方に位置している。この構成により、図 5 に示すように、洗濯物 L が物干し金物 37a, 37b に支持された物干し竿に掛けられたときに、例えば、シャツ等の比較的丈の短い洗濯物 L が窓 23 の上端部よりも上方に位置する。また、物干し金物 3

50

7 a , 3 7 b の先端部の位置は、窓 2 3 の南側（外部壁 2 a 側）の端部よりも北に位置している。

【 0 0 5 6 】

図 2 に示すように、ベランダ 4 0 は、北西の角部に配置されている。ベランダ 4 0 とダイニングキッチン 3 0 との間の外周壁 2 には、掃出しタイプの窓 4 0 a が設けられている。窓 4 0 a は、ダイニングキッチン 3 0 とベランダ 4 0 とを出入り可能に連絡している。ベランダ 4 0 の西側の縁部には、手摺 4 0 b が設けられている。

【 0 0 5 7 】

図 2 に示すように、トイレ 4 2 は、北側においてダイニングキッチン 3 0 に隣接して配置されている。

【 0 0 5 8 】

住宅 1 の外周壁 2 の南西の角部には、庇 4 6 が設けられている。庇 4 6 は平面視で L 字状であり、玄関ポーチ P を覆うように配置されている。外周壁 2 における子供部屋の窓 9 a , 9 b の上方の位置には、庇 4 8 が設けられている。庇 4 8 は、ウッドデッキ W を覆うように配置されている。外周壁 2 における主寝室 7 の窓 7 a 上方の位置には、庇 5 0 が設けられている。

【 0 0 5 9 】

以上説明したように、本実施形態に係る住宅 1 では、リビングルーム 2 0 とベランダ 3 6 とが外周壁 2 を介して隣接しており、外周壁 2 に窓 2 3 が設けられている。窓 2 3 の下端部は、ベランダ 3 6 の床 3 6 f の高さ以上で且つ床 3 6 f から 4 0 0 mm 以下の位置に設定されている。これにより、ベランダ 3 6 の床 3 6 f に植物が配置されている場合であっても、窓 2 3 の下端部がベランダ 3 6 の床 3 6 f の近傍に設定されているため、リビングルーム 2 0 からベランダ 3 6 の床 3 6 f に配置された植物を觀賞することができる。また、ベランダ 3 6 の床 3 6 f は、2 階床 S F と同等の高さとなっている。これにより、窓の 2 3 下端部は、中間床 M F よりも高い位置となる。そのため、例えば外周壁 2 側にテレビボード V B を配置してテレビボード V B にテレビ等を配置した場合であっても、テレビと窓 2 3 とが重なることを回避できる。その結果、リビングルーム 2 0 からベランダ 3 6 に配置された植物を觀賞することができる。

【 0 0 6 0 】

本実施形態では、軒天井 3 8 a 及び軒天井 3 8 a 上部の陸屋根 3 8 には、外周壁 2 側の位置に、軒天井 3 8 a 及び陸屋根 3 8 を貫通する開口部 3 9 が設けられている。これにより、開口部 3 9 を介して窓 2 3 からリビングルーム 2 0 に光を取り入れることができる。また、ベランダ 3 6 において窓 2 3 付近に植物を配置している場合には、その植物に開口部 3 9 を介して光を当てること及び水分（雨や露）を供給することができる。

【 0 0 6 1 】

本実施形態では、ベランダ 3 6 には、外部壁 2 a において軒天井 3 8 a の近傍に物干し金物 3 7 a , 3 7 b が配置されている。このような構成において、窓 2 3 の上端部は、ベランダ 3 6 の床 3 6 f と軒天井 3 8 a との間の高さの 1 / 2 以下の位置に設定されている。また、窓 2 3 は、平面視において物干し金物 3 7 a , 3 7 b と重ならない位置に配置されており、窓 2 3 の南側の端部は、ベランダ 3 6 に設けられた物干し金物 3 7 a , 3 7 b の先端部よりも北側に位置している。これにより、物干し金物 3 7 a , 3 7 b に洗濯物 L が掛けられたときに、リビングルーム 2 0 にいる居住者の視野に洗濯物 L が入り難くなる。

【 0 0 6 2 】

本実施形態では、南東の角部に 2 階床 S F が設けられていない領域 R を有し、領域 R の南側には、1 階床 F F と 2 階床 S F との中間の中間床 M F が設けられている。中間床 M F 上には、リビングルーム 2 0 が形成されている。領域 R においてリビングルーム 2 0 の北側には、吹抜け部 2 5 が形成されている。住宅 1 の 2 階の北には、ダイニングキッチン 3 0 が形成されている。そして、リビングルーム 2 0 の天井面 2 0 a、吹抜け部 2 5 の天井面 2 5 a 及びダイニングキッチン 3 0 の天井面 3 0 a の高さは、いずれも同等となってい

10

20

30

40

50

る。

【 0 0 6 3 】

このように、住宅 1 では、南側のリビングルーム 2 0 と北側のダイニングキッチン 3 0 との間で高さ方向のずれが小さい（ずれが無い）。したがって、住宅 1 では、リビングルーム 2 0 とダイニングキッチン 3 0 とが一体的な連続した空間となるため、開放感がある空間を実現することができる。また、住宅 1 では、リビングルーム 2 0 及びダイニングキッチン 3 0 の一体的な空間において、最も高い位置の天井面 2 0 a , 3 0 a と最も低い位置のリビングルーム 2 0 の床面（中間床 M F ）との高さの差が小さいため、高さ方向での温度分布に差が生じ難い。したがって、住宅 1 では、空調時の温度差を小さくすることができ、全体として温熱的な快適性を維持し易い。

10

【 0 0 6 4 】

本実施形態では、1 階の北東の角部に子供部屋 9 が配置されており、子供部屋 9 と廊下 6 との間仕切りは、半透明の亚克力パネルを面材とするドア 9 c である。ドア 9 c は、天地丈のスライド式である。したがって、ドア 9 c を開放することにより、子供部屋 9 とリビングルーム 2 0 とを一体的な空間にすることができる。また、ドア 9 c を閉めることにより、子供部屋 9 においてプライバシーを保護することができる。このとき、ドア 9 c を閉じた場合であっても、面材が半透明であるため、リビングルーム 2 0 側からの光を吹抜け部 2 5 を介して子供部屋 9 に取り入れること、更には子供部屋 9 外の空間から子供部屋 9 内の気配を感じ取ることができる。

【 0 0 6 5 】

20

本実施形態では、リビングルーム 2 0 の南側の外周壁 2 に開閉自在な窓 2 1 が設けられている。これにより、リビングルーム 2 0 を開放的な空間とすることができ、且つ、リビングルーム 2 0 に光を取り入れることができると共に、換気を行うことができる。また、窓 2 1 の下端部は、中間床 M F から 9 8 0 mm 程度高い位置（2 階床 S F よりも 1 8 0 mm 程度高い位置）に設けられている。つまり、窓 2 1 の下部は、外周壁 2 となっている。これにより、例えば住宅 1 の南側に他の住宅が隣接して建てられている場合であっても、リビングルーム 2 0 の下部が外周壁 2 により外部から視認されないため、居住者のプライバシーを保護することができる。また、窓 2 1 の上端部がリビングルーム 2 0 の天井面 2 0 a 近傍に位置しているため、特に夏季において天井面 2 0 a 近傍に滞留する熱気を効果的に排出することができる。

30

【 0 0 6 6 】

ここで、窓 2 1 の上端部の高さを維持しつつ、窓 2 1 の下端部を中間床 M F 近傍の高さとする、窓 2 1 の高さ寸法が大きくなる（例えば、3 0 0 0 mm 程度）。この場合、窓 2 1 自体のコストが高くなると共に、窓 2 1 に合わせたカーテン（窓掛け）を作成する必要がある、その分もコストが高くなる。本実施形態では、窓 2 1 の高さ寸法は、2 2 0 0 mm 程度であるため、一般的に市販されている窓及びカーテンを用いることができる。したがって、コストの増大を抑制できる。また、リビングルーム 2 0 の南側の一部（下部側）を外周壁 2 とすることにより、家具のレイアウトを行い易くなる。

【 0 0 6 7 】

40

本実施形態では、窓 2 1 は、障子 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c , 2 1 d により構成されており、障子 2 1 a ~ 2 1 d は、東西方向に沿ってスライド可能に設けられており、障子体 2 1 A , 2 1 B をそれぞれ構成している。障子体 2 1 A , 2 1 B では、障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d のそれぞれを両端部側にスライドさせると障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d が外側に突出して折り畳まれ、それぞれ一端部に寄せられる。このように、窓 2 1 を複数の障子 2 1 a ~ 2 1 d で構成すると、窓 2 1 を開けたときに、障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d が外側に突出する。これにより、障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d が袖壁として機能する。これにより、リビングルーム 2 0 の内部が建物外部の横方向から見え難くなるためプライバシーを保護することができると共に、横方向からの雨の吹き込みを抑制することができる。

【 0 0 6 8 】

50

本実施形態では、窓 2 1 の上方に庇 2 2 が設けられている。これにより、窓 2 1 との協働により、雨の吹き込みを更に抑制することができる。

【 0 0 6 9 】

本実施形態では、ダイニングキッチン 3 0 にアイランド型のキッチンセット 3 1 が配置されている。これにより、キッチンセット 3 1 が配置された空間が閉鎖的とならないため、キッチンセット 3 1 において開放感を得ることができる。

【 0 0 7 0 】

本実施形態では、ダイニングキッチン 3 0 に連通すると共にリビングルーム 2 0 の西側に形成されたユーティリティ室 3 2 と、ユーティリティ室 3 2 に連通するベランダ 3 6 とを備えている。ユーティリティ室 3 2 とベランダ 3 6 とは、南北方向において連続して配置されており、キッチンセット 3 1 は、ダイニングキッチン 3 0 において西側に配置されている。このような構成により、家事を行う際の動線を短くすることができる。また、ダイニングキッチン 3 0 の西側にキッチンセット 3 1 を配置することにより、ダイニングキッチン 3 0 の東側の空間とリビングルーム 2 0 とにおいて更に開放的がある空間を実現することができる。

10

【 0 0 7 1 】

本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。上記実施形態では、窓 2 1 において、障子 2 1 a , 2 1 b 及び 2 1 c , 2 1 d が両端部のそれぞれにスライドして配置される構成を一例に説明したが、障子 2 1 a ~ 2 1 d が一端側にスライドしてまとめて配置される構成であってもよい。

20

【 0 0 7 2 】

上記実施形態では、物干し金物 3 7 a , 3 7 b がベランダ 3 6 の外周壁 2 の内面側に配置されている構成を一例に説明したが、物干し金物は、軒天井 3 8 a から吊り下げられる垂下式であってもよい。

【 0 0 7 3 】

また、窓 2 3 の下端部の高さは 2 階床 S F から 0 ~ 4 0 0 m m の範囲、且つ雨仕舞上問題ない範囲で適宜設定できる。2 階床 S F からある程度情報に設定することで、鉢やプランターは窓 2 3 下方の外周壁で視野から除外され、植物のみが視野に入るようにすることができる。

【 0 0 7 4 】

上記実施形態において示した寸法は、一形態を例示するものであり、変更が可能である。

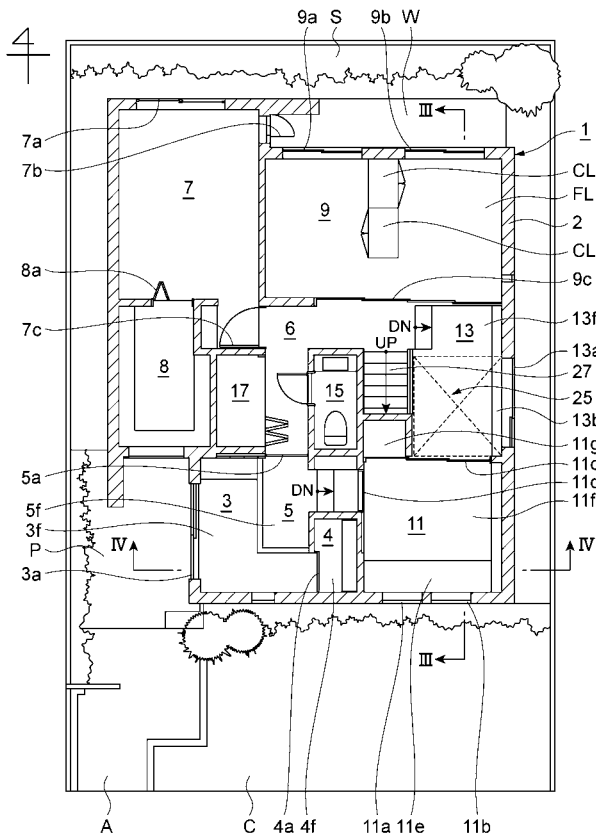
30

【 符号の説明 】

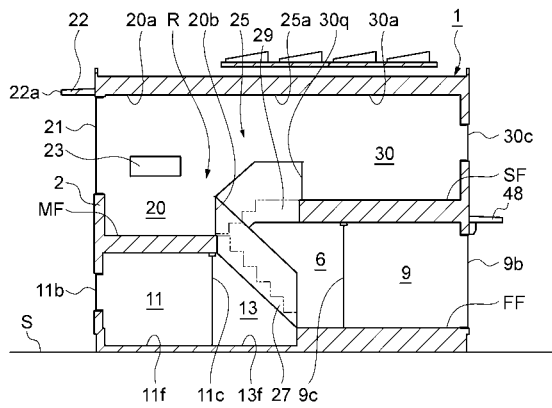
【 0 0 7 5 】

1 ... 住宅、2 ... 外周壁、2 a ... 外部壁、2 0 ... リビングルーム（高天井居室）、2 0 a ... 天井面、2 3 ... 窓、3 0 ... ダイニングキッチン（第 1 居室）、3 0 a ... 天井面、3 2 ... ユーティリティ室（第 2 居室）、3 6 ... ベランダ（外部室）、3 6 f ... 床、3 7 a , 3 7 b ... 物干し金物、3 8 ... 陸屋根、3 8 a ... 軒天井、3 9 ... 開口部、F F ... 1 階床、S F ... 2 階床、M F ... 中間床、L ... 洗濯物。

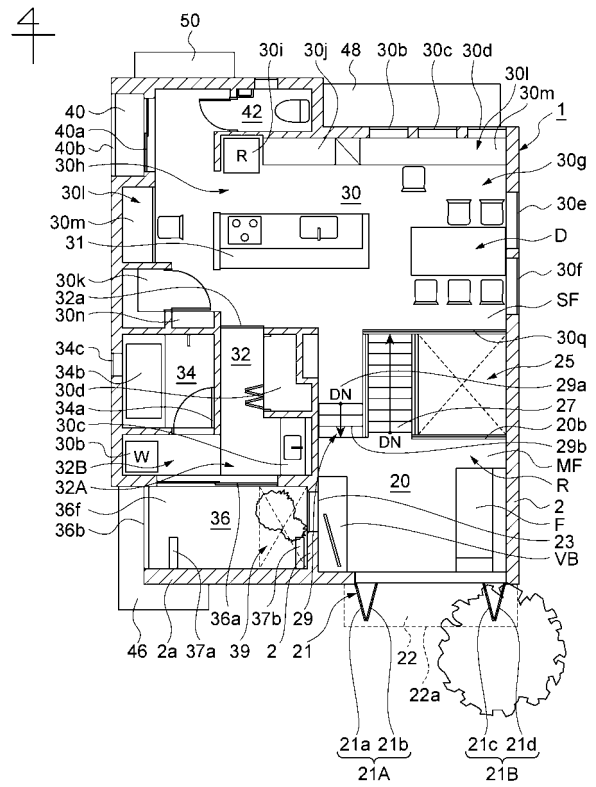
【図 1】



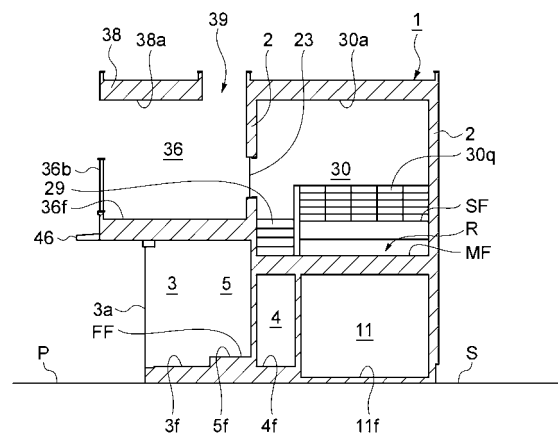
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【 図 5 】

